

森づくり最前線

会津森林管理署南会津支署 檜枝岐森林事務所
首席森林官 石栗英人



ブナ平

福島県檜枝岐村は、福島県の西南端に位置し、新潟・群馬・栃木県境に接する奥会津の小さな村です。人口約550人、面積約3万9千haのうち98%が森林です。日本有数の豪雪地帯でもある檜枝岐村では村民のスキー熱が高く、村民スキー大会には毎年ほとんどの村民が参加します。しかも、大正14年に当時の国有林の担当区主任（現在の森林官）がスキーを教えたのが村のスキーの始まりとも言われています。かつては豊富な天然林を活かした林業や木工が主産業でしたが、時代とともに衰退し、現在は民宿など観光業が主産業となっています。

管轄する国有林野は村の約8割を占め、大部分が「奥会津森林生態系保護地域」や「緑の回廊」に指定され、「日本の自然保護の原点」と呼ばれる「尾瀬国立公園」、東北最高峰の燧ヶ岳（2,356m）や会津駒ヶ岳（2,133m）などの百名山があります。また、「日本美しい森お薦め国有林」に選定された「ブナ平自然観察教育林」と「御池森林スポーツ林」は、ブナ原生林が広がり、秋には一面に広がる紅葉を楽しむことができます。



尾瀬沼から燧ヶ岳を望む



尾瀬大江湿原のニッコウキスゲ

檜枝岐森林事務所での主な業務は、森林や施設の利用・管理にかかる村・県・環境省等との調整、巡視等です。尾瀬の約20kmの木道とその倍の登山道を環境省や県・村が管理しており、木道の修繕の立ち会いなどで、燧ヶ岳や尾瀬沼周辺を一日中歩くこともありますが、疲れを忘れるほど雄大な景観に魅了されています。また、森林保護員（GSS IIグリーンサポータースタッフ）による尾瀬での巡視、登山者へのゴミの持ち帰りや高山植物採取禁止にかかる指導・啓発活動も行っています。



防鹿柵の設置（右端が筆者）

尾瀬での最近の話題としては、大江湿原の植生保護のため、会津森林管理署南会津支署が地元協議会の協力も得て防鹿柵の設置事業を行ってきたところ、昨年7月には多くのニッコウキスゲの開花が見られ、地元から感謝の声が寄せられたことが挙げられます。普段の生活では、つなぎを使用しない「裁ちそば」や、山で働く男たちが作る「山人（やもど）料理」、サンショウウオなどの珍味も味わいながら、積極的に村の行事に参加しています。これからも、地域住民に寄り添い、国有林野事業への理解促進に努めていきたいと思っています。